

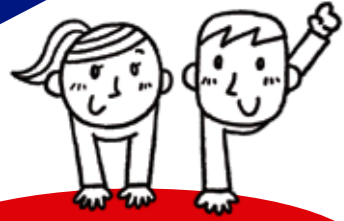
2018年9月22日(土) 2・3時間目、四中2年生を体育館で待っていたのは、

医師、福祉関係者、建築士、芸術家、研究者、ITベンチャー社長、メーカー勤務のサラリーマン、メディア関係者といった19名の職業人の方々。ゲストティーチャーを囲むように各ブースに分かれて、総合的な学習「職業インタビュー」が行われました。

生徒たちは、自分の将来の夢や希望を一人ずつ発表。ゲストティーチャーへのインタビューを通して、働くことへの思い、成功や挫折などのリアルな人生経験に触れました。また、ゲストの中学生時代の話などもうかがい、さまざまなアドバイスをいただきました。

15分おきにブースを回り、1時間で3名のゲストティーチャーの話をうかがうという慌ただしさだったために、ゲストの皆さんからは「もっと対話があった」という感想もありましたが、授業後の生徒の皆さんの感想からは、働くことに対する力強いメッセージをしっかりと受け取っていることが分かりました。

この授業は、四中2学年で実践しているキャリア教育にCS委員会がコラボする形で、半年をかけてゲストティーチャーへの依頼、打ち合わせを経て実現しました。親や先生以外の大人ときちんと対話するという経験は、生徒たちにとって有意義なものであったことと思います。



生徒の感想



誠実に生きること、嘘をつかないこと、家族を大事にすることが大切だと思った。

他人を助けて感謝してもらおうと、自分に返ってくる。自分もそうしようと思った。



人を笑わせたり、泣かせたり、喜ばせたりする仕事は素晴らしい。

人の心を開かせることの大変さが分かった。忍耐強さは、どの職業にも通じる。



勉強ができないと社会に出たときに可能性が狭くなる。勉強する意味を考えた。

心の支えは使命感や家族の存在。

人のため、自分のために、やりがいを感じるってすばらしい。

前向きに考える、相手のことを否定しないという言葉に強い印象を受けた。

壁を乗り越えないと成長できないという言葉が印象に残った。



どんな仕事でも人の役に立つし、人を笑顔にすることが出来るという話が印象に残った。

会社に行く人が一番大変だと思っていたが、そうじゃない。気力と体力が大切だ。

「仲間を大切にすること」という言葉が心に残った。



一日9時間の練習に驚いた。その原動力は将来の明確な目標だと知った。

「手を抜かないでベストを尽くす」という姿勢に感銘した。

ゲストティーチャーの皆さんより

- 情報がありすぎて、何を聞いてよいのか、迷いがあるのだろうかあとと思いました。
- 大人でもない、まだ悩んでもいない、そんな中学生にメッセージを伝えたつもりです。
- すごく真面目。どれだけ子どもに響いたか、望む話ができたかどうか。もう少し対話ができたらよかったです。
- 生きがいてなんですかという質問に、自分も考えながら話しました。
- すごく一生懸命にメモしていた。大人と話す体験は、貴重な経験となったことですね。
- 皆さん素直な生徒さんたちで、感動しました。若い力を応援していくのが私たちの役割だなと実感しました。



「人類を代表して責任をもってしている仕事」とおっしゃっていたのが心に残った。



友達や家族など身近な人を大切にしているのか、自分に問いかけた。

社会では辛いことがあっても、それを乗り越えていかないといけない。

